

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 2 6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Multicentre study of acute alcohol use and non-fatal injuries: data from the WHO collaborative study on alcohol and injuries.</p> <p>急性飲酒と非致命的傷害についての多施設研究：アルコールと傷害に関する WHO 共同研究のデータより</p>	
執筆者	
Borges G, Cherpitel C, Orozco R, Bond J, Ye Y, Macdonald S, Rehm J, Poznyak V.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Bull World Health Organ.2006 Jun; 84(6):453-60	
キーワード	
非致命的傷害、飲酒、オッズ比	
要 旨	
<p>目的： 軽度もしくは中等度飲酒者の、非致命的傷害のリスクを明らかにするとともに、傷害の起こり方とアルコール中毒の程度との関係を解明することを目的とした。</p> <p>方法： 2001年から2002年の間に、アルコールと傷害に関するWHO共同研究に参加した世界各国（アルゼンチン、ベラルーシ、ブラジル、カナダ、中国、チェコ共和国、インド、メキシコ、ニュージーランド、スウェーデンの10カ国）における救急部の、18歳以上の受診者である4320人を対象とした。患者横断研究の手法を用いて、傷害から遡って6時間以内のアルコール摂取と、傷害がおこった前の週の同じ曜日のアルコール摂取を比較した。</p> <p>結果： 傷害がおこるリスクは、エタノール換算で16ml（これを1単位とする）の飲酒では飲酒量0と比べて、オッズ比は3.3（95%信頼区間(95%CI):1.9-5.7）であり、飲酒量が増えるごとにリスクは有意に増加した。また傷害の6時間前から6単位以上飲酒した場合、傷害がおこるリスクは10倍に増加した。意図的にな傷害を受けた場合（自傷、他傷含めて）は、意図的でない場合よりも、飲酒により傷害のおこるリスクは高かった。アルコール中毒の症状がない者の方が、ある者よりも傷害を受ける危険のオッズ比は高かった。</p> <p>結論： 少量の飲酒でも、非致命的傷害の増加と関連があり、またアルコール依存のない人が傷害を負う危険性がより高い、すなわちこういった害を減らすための幅広い対策が、救急部を受診する全ての飲酒者に対して行われる必要がある。</p>	